

たかよし

カトリック大宮教会
 〒330-0803
 さいたま市大宮区
 高鼻町 2-350
 TEL 048(641)2935
 FAX 048(641)2724

そこへ今度は一人の女がやってきて知らずに穴の近くを通りました。親切な人は彼女が穴に落ちないように守ってあげました。親切な人は女のことも救ったのです。



聖母マリアの無原罪なる御宿りは神が特別な目的からご計画されたことです。マリアは神に選ばれた時から罪のない状態でした。聖母の無原罪の御宿りを説明する物語があります。一人の男が誤ってぬかるみの穴に落ちてしまいました。通りかかった親切な人が手を差し伸べ、彼を穴から引き上げてやりました。親切な人は穴に落ちた男を救ったのです。

男も女も親切な人に救われましたが、この二人の状況は全く異なるものでした。男は穴に落ちて泥だらけになってしまいました。女は穴に落ちなかったので、汚れずに済みました。彼女はきれいなままだったのです。マリアは神に選ばれた時、神に清められ、罪のない状態になりました。そして神の御ひとり子イエスをそのご胎内に身こもりました。

聖母被昇天
 — 神からのご褒美 —
 ジャック・セラテOFM

マリアの全存在は特別なものであり、地上での人生を終えた時、身も心も天に上げられたと言われています。

聖母の被昇天は無原罪なる神の母への神からのご褒美でした。ダイヤモンドの指輪が貴重な真珠の飾りのついた立派な皮製の箱に入れられています。あなたはダイヤモンドの指輪だけを取って箱を捨ててはいけません。なぜなら指輪も箱もどちらも貴重なものだからです。

聖母マリアが天に上げられ、御子イエスも昇天されました。どちらも神のみこころの内に貴重な存在なのです。聖母被昇天、おめでとうございます。

もくじ

聖母被昇天—神からのご褒美—	1
岡田大司教講話	2
ロニー神学生インタビュー	2
入信の記	3
マリアさまへのながみ	4〜5
マリアと私	6
コルダの会	7
教会日誌	8

カトリックさいたま教区勉強会

誰でもみな、福音宣教者です

— 福音宣教に関する教会の教え —

ペトロ 岡田武夫大司教 講話



2015年7月25日、大宮教会聖堂に於いて岡田武夫東京大司教(さいたま教区管理者)を迎え、第二バチカン公会議の重要公文書である、『教会憲章』『教会の宣教活動に関する教令』『福音宣教』などについて学び理解を深めるために勉強会が催されました。うだるような暑さにもかかわらず、さいたま教区各地からたくさんの方々が参加され、熱心に聴き入っておられました。

「宣教の真髄とは何か」(福音

の喜びを伝えるとはどういう事か)「私たち神の民の使命とは何か」について、詳しく分かりやすく明していただきました。その中で次の言葉が心に残りま

した。

「宣教活動について」
— 生活の真正なあかし — の中で
「あなたは自分が宣言していることを本当に信じていますか」
「あなたは信じていることを生きていますか」
「あなたは行っていることをのべていますか」……

— 愛によるあかし — の中で

人の集団におけるキリスト信者の存在は、キリストがわれわれを愛されたのと同じ愛によって生かされなければならぬ。……私たちが一人一人が「この世界が完全に神様のご計画になつたものとなるように」努め、生きていくことが出来ますように。

ローン神学生に

インタビュー

五月から主日のミサで奉仕されているローン神学生を紹介します。これまでの経緯は？

フィリピンの神学校を卒業後、来日して浦和教会、上福岡教会、川越教会を経て、南山大学で一年間日本語を学び、五月に埼玉に戻ってきました。

今は何をしていますか？

平日はジャック神父様とオープンハウスに行ったり、司祭館で勉強しています。

大宮教会の印象は？

建物が新しく広く清潔で気持ちがいい。埼玉で一番すばらしい教会だと思う。いつも事務所に誰かいるので安心です。気軽に話せる優しい人が多くて嬉しいです。

抱負は？

子どもが好きなので、子どもや青年との活動に力を入れたい。

信者の皆さんへメッセージを

一番大切なことは共にいつも神に感謝することだと思います。人生において様々な困難にあうでしょうが、全ては神からの必要な恵みで、私達を強めてくれるものです。いつも神に信頼することです。

「新生」

蒔かれた種が：

(3)

こんにちは。私は不治の病・死の病である、アルコール依存症患者です。この病気は否認の病と呼ばれ、「自分に限って、そんな病気になるわけないだろう」と思っているうちに、健康・仕事・信用やがては命さえも奪っていきます。本人が「底つき」して「無力」を認め一生酒を断つ、古い生き方を捨てて新生しなければ、滅びしか選択肢はありません。私の場合も楽しみで飲んでいたはずの酒ですが、いつしか「酒で死ねれば本望だ」と思うようになっていました。そんな私が一切の酒を断つたのが五年前の夏。職を失い、精神病院と自助グループに通う日々。酒を断つてみたものの、生きる希望も見出せませんでした。その年のクリスマス前、自殺を考えながら部屋を片付けていた時のことです。突然、温かいものが私の体を包み

凍りついた心が溶かされ、涙が止まらなくなりました。その時、整理していたゴミの山から出てきたのが一冊の聖書。それは私が中学生の頃、校門の前で配られたものでした。以前引越した時に、書籍の多くを処分したのですが、全く読む気のなかった聖書が、何故か処分されずに部屋にあつたのです。

そして何故か読む気になった。新約だけの聖書でしたが、その年のうちに全部読み切りました。蒔かれた種が、四半世紀の時を経て芽を出したのです。「希望なんて無くても良いのだ。神に委ねていれば必ず良いように導かれる」。読み終える頃には、そう確信できるようになっていました。

その半年後より大宮教会でお世話話になり始め、三年間かけて神への信頼を深め、去年晴れて受洗となりました。皆様、今後ともよろしくお願い致します。主の平和。

聖母と私

神様、

変えられるものを変える勇氣と、変えられないものを受け止める心の静けさと、この両者を見分ける英知を与えて下さい。

これは、私が初めてもらったお祈りです。加えて、何を大切に生きるべきか考えるきっかけになったお祈りです。多感な少女時代、周囲の反応を気にしてしまふ自分に、冷静に物事を考えるよう教えてくれる存在でした。カトリック校に入学してすぐの出来事でした。

気付けば、人生の分岐点に立つ度、この祈りと学校で触れたキリスト教的価値観が自然と物事を判断する心の支えになっていました。そんな時、何かに導かれるように、お祈りをくれた人と再会することができました。このことにとても霊的なものを感じ、洗礼

を受けたいと思い、今日に至りません。

受洗後のいま、日が経つにつれて、皆様に声をかけていただいた「大きな恵み」の意味が少し分かりはじめました。

そして、これまで、人生の岐路において、私の隣には必ず聖母マリアがいて下さったことも納得できるようになりました。聖母マリアと、もらったお祈りが私を信仰に導いてくださったのも、神様のご計画のうちのことなのでしょう。

最後になりましたが、信仰も教会についても、まだまだ未熟ですが、聖母マリアのように大海原のような心をもって、人々と関わっていけるよう努めたいと思います。そして、キリストの手や足となつて人々と関われるよう日々の生活に希望を忘れず歩み続けたいと思います。

神さまへのおてがみ マリアさまってどんなお顔？

教会子ども会は、第2・3・4日曜日に活動しています。今回はその活動の一部をご紹介します。
子ども達が神様に自分のことを知ってもらいたいと書いた「神様への手紙」
また、「マリアさまってどんな人かな？」「うちのお母さんみたいなのかな？」など考えながら描いた
「マリアさまってどんなお顔？」です。
子ども達の生き生きとした作品をどうぞご覧ください。



神様へ
4年生になって宿題がたくさん
出ます。金曜日いっぱい出され
ます。わたしは土日はいっぱい遊
びたくて、教会にも行きたいので
金曜日に宿題が全部終わるように
がんばりたいです。
これからもわたしたちのことを
おまもりしてください。
(四年生)

神さまへ
わたしはクラブをがんばります。
そして、子ども会でミサでのお手
つだいをがんばりたいです。
1・2・3年生のお手本になれる
ような4年生になりたいです。
(四年生)

かみさまへ
わたしは、かん字をがんばりたい
です。とびばこをがんばりたい
です。おとうがうるさいです。
どうにかしてください。
(三年生)

かみさまへ
べんきょうをがんばりたい。
みんなとなかよくなりたい。
びあのをがんばりたい。
てつぼうをがんばりたい。
(二年生)



些細なことでもお話を

ベトナムでは学校はカトリック系の女子校で勉強していました。中学生のころ、シスターがよく生徒を盲学校や聾学校、また病院などへ連れていってくれましたので、世の中には困難な状況に置かれていた人々が、多くいるのだと分かるようになりました。

社会に出て学校で働くようになってからは、その校長先生が元日本への留学生で、教育に熱心だったこともあり、社会的に恵まれな子ども達の教育にも興味が向くようになりました。わたしはホーチミン市生まれの、ホーチミン市育ちですが、ベトナムではベトナム戦争後も社会的な混乱はなかなか回復しませんでした。長い間、特に地方の人々の暮らしはたいへんで、経済的な理由で小学校や中学校を途中でやめざるを得ない子どもも多くいました。現在ではベトナムの経済状態はいくらか良くなりつつありますが、それでも中部や、北部の山岳地帯に住む人々は、まだまだたいへんなようです。

わたしは、そのような恵まれない子ども達の教育を支援する活動にたずさわっていました。といつても、仕事が忙しくて、手伝いはほんの少しだけです。

またその頃は毎晩寝る前のお祈りも、小さいころの家族がそろってのロザリオの祈り、また絶えざる御助けの聖母子の九日の連禱などの祈りとは違って、とても単純なものでした。一日のことを考えると、自分のことばかりで、人に役立つようなことは何一つしていません。でも生活の中で、嬉しいこと、心配なこと、些細なことでもマリア様と話します。いつもだれかそばにいるように相談したり、お願ひしたり、また自分の望んでいることを話したりします。そして叶ったことが多いのでわたしの声を聴いてくださったことを信じて、嬉しく思います。頂いためぐみに応えるようにこれからロザリオのお祈りをしながら、病に苦しむ人、また悲しみにうちひしがれる人を訪れたいと思います。

マリアさまと私

祈りの花を一輪・一輪

わたしにとってマリア様は、特別な存在です。マリア様は神の母であり、そして私たちの母でもあります。マリア様から、沢山のことを学びました。信仰と信心、優しさ、思いやり、自然な流れ、忍耐、母性、謙遜、そして心の清らかさです。愛し大切に思う人のために何か出来ることがないのか、考えることは皆さん同じです。家族、友人、知人に自分の想いを伝える方法は、色々です。私は大好きなマリア様へ、時と場合に応じてお祈りを心懸けています。朝起きた時に、神様に奉獻の祈りを捧げ、続けてマリア様にも奉獻の祈りを唱えます。このお祈りは、子供の時に母に教わりました。そのお祈りは、「マリア様に今日、私の目、耳、口、そして心と、全てを捧げます。どうか一日守って下さい」という素敵なお祈りです。正午には、お告げのお祈りをマリア様に捧げます。お昼まで無事に過ごせたことに感謝し、午後の無事をお祈りします。ロザリオのお祈りは、私の習慣でもあります。大好きなマリア様に、バラの花を

一輪、一輪、捧げるような美しいお祈りです。子供の頃は、フィリピンで毎晩家族と共にロザリオのお祈りを唱えていました。今、思うと懐かしい思い出です。子供達の成長と共に、一緒にお祈りすることが難しくなりました。しかし、自分一人だけでも、この習慣を大切に守り続けたいと思います。家にはマリア様を象徴する絵や写真を、置いてあります。日々の生活は、神様やマリア様と共にあることを、実感出来るよう、工夫しています。そして就寝前に、その日の反省と良心を振り返り、母に教わった、めでたしのお祈りを三回唱えます。マリア様のような心の清さを備えられるよう、神様にお願ひ申し上げます。

マリア様を通じてもつとイエスキリストの心に近付きたい。

来日から二十五年が経過し、日本語でのお祈りも少しずつ覚え、理解して来ました。日本語の賛美歌はとても美しく、大好きです。ミサの終わりに時々歌われる「マリア様の心」という賛美歌は、特に心の奥底まで染み渡ります。

皆さんはどのように、お祈りをしていますか。また、これから、どのようにお祈りをしようと考えていますか。私のお祈りが、皆さんの参考になれば幸いです。

コルダの会便り

コルダの会は来年で設立から十五年になります。正式な発足以前に長い準備期間がありました。それを考慮するともう随分な時間が経過しています。キリシタン史の勉強会にはじまって、関連地への巡礼・フェスタ・ペトロ岐部の朗読劇の公演など、少しずつ色々な活動を続けてきました。これはひとえに会員の皆さんの熱心な協力、当教会以外の会員や外部から支援して下さる方々のお蔭です。二年ほど前には資料の保存管理の為に書庫を購入し、只今整理作業が進行しています。いずれ年数回は一般公開日を設ける計画です。また現在、所蔵資料中の最大サイズの十字戦陣旗の保存方法を専門業者の方に技術的な検討を依頼しております、確定次第としかかる予定です。何分にも四百年前のものですから

傷みも進んできましたので待った無しです。というわけでこれからも地道な活動をしていくつもりです。

「切支丹宗門別而御制禁多り・・切支丹の本尊をテイウスと号す唐人の手を・・」

この文書は、「転切支丹血脈統之事」という文書の一文です。ここには、キリスト教を耶蘇宗門といい、本尊がゼウスと言われていることや絵踏をさせた結果、信者であると判明した一族の系図が書かれてあります。禁制の宗教となつた後の取締りは、私達の想像をはるかに超える厳しいものであったと思われます。

コルダの会便り

明治八年「信教の自由」の通達が出されるまで禁教であったキリスト教。信仰を持ち続けることが出来たのは何故なのでしょう。全国に散らばる遺物の存在、信仰の証は何を私達に伝えようとしているのでしょうか。

豊かで自由な時代を生きるなか、神を信じ、祈りを捧げることについて考えてみたいと思つています。「コルダの会」で伺えるお話はとても楽しいうえ、多くのことを知ることが出来ます。是非、会の活動へ皆様、足を運んで下さい。

コルダの会との出会いは、自分の所属する教会で殉教者の巡礼(バテレン山)を企画しコルダの会の皆さまにアドバイスをいただいた時からでした。

数年前初めて訪れた長崎の西坂の地と列福式に出席できたことが、私の切支丹殉教者に対する思いの原点であるといつも感じております。この関東にもまだ知られていない殉教者が数多くおられると思います。また、日本全国にあるキリシタン石仏の奥の深さにも非常に心を動かされます。切支丹に関する資料や情報も、実は、年々増えているようにも感じます。

教会日誌

- 1/1 元旦ミサ 午前十一時
 1/8 信徒委員会
 1/25 信徒総会
 2/8 信徒委員会
 2/18 灰の水曜日
 3/1 自主グループ「コーヒー販売」
 終了(二〇〇四年三月開始)
 3/8 共同回心式
 信徒委員会
 3/22 鈴木神父様による「四旬節講
 話会」もと「十字架の下に佇む」たず
 3/29 枝の主日
 4/2 聖木曜日 午後七時
 4/3 聖金曜日 午後七時
 4/4 聖土曜日 午後六時
 4/5 復活祭
 4/12 信徒委員会
 子ども会始業式(常時入会可)
 5/10 主のご昇天
 信徒委員会
 5/17 聖霊降臨の主日
 5/24 三位一体の主日
 6/7 キリストの聖体
 初聖体(六名)
 6/14 信徒委員会
 6/12 信徒委員会
 7/19 子ども会終業式
 7/26 岡田大司教様による勉強会

- 8/1 バーベキュー大会 午後七時
 8/15 聖母被昇天の祝日 午前十時
 鈴木神父様司式ラテン語ミサ
 8/17 〓子ども会サマーキャン
 8/19 感謝の集い(敬老の日)
 9/27 バザー(幼稚園同時開催)
 10/25